

ひと おらが

詩や和歌、漢詩に節をつけて表現する詩吟に打ち込む高校生。3人は小学生のときに、児童クラブでの文化活動をきっかけに詩吟を始めました。

県内の高校には詩吟の部活動がない中、高校の垣根を越え、切磋琢磨しながら共に活動しています。

3人を指導する加藤龍蓬さんと一緒にお話を伺いました。



さ さ き あ や
佐々木 亜弥さん
(湯沢高校2年)

さ とう そ う
佐藤 蒼さん
(湯沢高校3年)

さ とう はるか
佐藤 悠さん
(増田高校2年)

青春は詩吟とともに

——詩吟の魅力を教えてください。
佐々木 詩や和歌、漢詩に節をつけて詠うことで、作品の情景や思いを人に伝えられるのが詩吟の魅力だと感じています。

——小学生から始められたと伺いましたが、ここまで長く続けられた理由は何ですか。
佐藤(蒼) 昔の文学作品に触れられることや、詠い終えたときの達成感、詠うことの楽しさがあったから続けられました。

——詩吟をやったからこそ感じていることはありますか。
佐々木 詩吟をやっている人は少ないからこそ、詩吟ができていること

に満足感があり、自信につながっています。

——詩吟を続ける生徒たちを見て、どのように感じていますか。
加藤 学校の勉強やクラブ活動を優先しながら、詩吟の練習にもきちんと取り組んでくれていて、本当に偉いなと感じますし、いつも感心しています。

——ほかの2人とはどのような関係性ですか。
佐藤(蒼) 自分が最年長だという意識があるので、2人には負けない、常に自分が一番だと思って取り組んでいます。

佐藤(悠) 一人で練習していると課題に気づかないこともありますが、

2人の詩吟を聞くことで自分の苦手な部分がわかり、その部分は2人を参考にしています。

佐々木 私は低音が苦手なので、低音がしっかり出せる悠さんはすごいなと感じています。蒼さんは一番上手なので、2人ともお手本のような存在です。

——今後頑張りたいことなどはありますか。
佐藤(蒼) まずは、大学受験です(笑)

詩吟は続けたいと思っています。

佐藤(悠) 詩吟がもっと上手くなるように努力すること、勉強を頑張ります(笑)

佐々木 来年、全国高校総合文化祭の「吟詠詩舞部門」が湯沢文化会館で行われるので、市の魅力をアピールできるように頑張りたいです。

